

読書推進運動



公益社団法人

読書推進運動協議会

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1-32

出版クラブビル 6階

TEL 03(5244)5270

FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘

編集人 片岡 伸子

定価 60円

会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.648

★「若い人に贈る読書のすすめ」掲載図書決定(2頁)

★「全国優良読書グループ」表彰団体決定(3頁)



「若い人に贈る読書のすすめ」によせて

これからYA本の真価が
問われると思います！

一般社団法人 日本国際児童図書
評議会(JBBY) 監事

阿部 薫

講談社在籍の20年前、青い

『YA! ENTERTAINMENT』

をめぐります。進級試験、経

鳥文庫のはやみねかおるさん

シリーズを立ちあげ、『NOG』

はだかりますが、周囲の人々

『名探偵夢水清志郎シリーズ』と、松原秀行さんの『パ

ソ通信探偵団シリーズ』

の支援もあり、苦難を乗り越え

が小学校高学年にたいへんな

人気が博していました。新

作は『都会のトム&ソーヤ』

刊が出ると即刻、数多くのハ

ガキが届き、『試験前なので、

『都会のトム』は今夏、実写映

『青い鳥』は禁止よ、とママ

に言われ、お布団の中に電気

画のエンタメ要素を含め、作

スタンドを引き込んで、隠れ

て読みました」とか、きれいな

キャラクター作り」をされた

文字で「つべこべ言わずに

の成功に結びつきました。

私がここ数年、YA向けの本

つぎを書け！」と書かれたも

の最新YA(ヤングアダ

ル)書では、イタリア在住の

のもあり、これには笑い、泣

き佐藤まどかさんの『アドリブ』

とブルー(新潮社)です。

かされました。締め切りが遅

れ気味で言い訳の多い、はや

みねさんへの「可愛い抗議」

のハガキでした。

小学校高学年の読書熱を中・高生に継承すべく、2003年に『YA! ENTERTAINMENT』シリーズを立ちあげ、『NOG』をあさのあつこさんに、『妖怪アパートの幽雅な日常』を香月日輪さんに、はやみねさんには『都会のトム&ソーヤ』を書いていただきました。

『都会のトム』は今夏、実写映画化もされ、小学校高学年から大人まで幅広い人気があります。『YA!』シリーズは漫画のエンタメ要素を含め、作家のみなさんが「際立ったキャラクター作り」をされたのが成功に結びつきました。

最新YA(ヤングアダルト)書では、イタリア在住の佐藤まどかさんの『アドリブ』(あすなろ書房)がお勧めです。イタリアに住む日本人の母と、少年ユージの親子の物語で、ユージはフルート奏者にめぐります。進級試験、経済困窮など数々の試験が立ちまわりますが、周囲の人々の支援もあり、苦難を乗り越えるさまは、爽快感さえ覚えます。

八束澄子さんの『団地のコトリ』(ポプラ社)は、女子中学校2年生の視点を通して、独居老人と居所不明児童のテーマが描かれています。差し伸べる手と手が繋がり、読後感のよい本です。

私がここ数年、YA向けの本としていちばんのお勧めは、一般書ではありますが、『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』(新潮社)です。

日本人のパンクな母親と、元ロンドンの銀行員で現在、大型ダンプの運転手をしているアイルランド系英国人の配偶者、そして中学生の男の子の3人家族は英国のとある街に住んでいます。熱い母親と、思いのほか冷静で利発な息子、人種差別、貧富、難民問題、ドラッグ、ジェンダーとさまざまな社会問題を語り、ときおり新聞を読んでいる配偶者が老眼鏡を上げながら、ふたりの間に絶妙な間合いでボソッと突っ込みを入れます。重いテーマながらも魅力的なキャラクターの会話のためか、ページを繰るスピードも速まります。

YA本の需要はますます高まると思います。いまの社会状況は国内外問わず、「課題」が山積であり、YA向きテーマにはこと欠きません。ただ社会問題だけに意識が向き過ぎず、人物造形にも尽力し、工夫してほしいと思います。数年後にはこの本のような会話が日本の家族の中で交わされているかもしれません。『ぼくはイエローで』の帯に、【親子で読みたい『一生モノ』の課題図書】とあります。すばらしい。納得です！

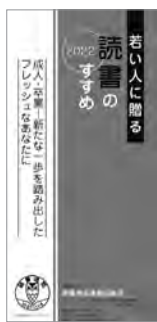
2022

『若い人に贈る読書のすすめ』実施

公益社団法人読書推進運動協議会・事業委員会は、2022『若い人に贈る読書のすすめ』推薦図書24点を選定しました。

今年も例年どおり、道府県読書推進運動協議会に「若い人にぜひ読んでもらいたい本」の推薦を依頼、40の読進協から計95点の書目の推薦をいただきました。

もともと推薦が多かったのは、青山美智子の『お探し物は図書室まで』で、6つの読進協から推薦がありました。ついで、アンデシュ・ハンセン(著・久山葉子(訳)の『スマホ脳』が5つの読進協から推薦がありました。三浦しをんの『エレジーは流れない』、齋藤孝の『本当の「心の強さ」ってなんだろう?』も人気を集めました。事業委員会の書目選考基準は、①各出版社1点 ②複数県推薦書



③対象読者向きか ④

そのほか各委員が特別に推薦したい書目などを勘案して検討。本年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、メールでの投票と意見交換を行い、最終的に委員会全体で24点を確認、決定いたしました。

本年度も、この推薦図書リーフレットを21万部製作、道府県の読進協・都道府県立図書館を通じて各公共図書館に、日本出版取次協会の協力で取次会社を通じて全国の書店に配布を行い、有効に活用していただく予定です。

リーフレットの出来は12月上旬を予定。成人式での利用のため2021年内の受け取りご希望の方は、早めにご連絡ください。卒業式、読書グループ、学校での読書指導、地域の文化活動などのご利用も歓迎です(部数にかぎりがあります)。ご希望の方は公益社団法人読書推進運動協議会事務局までお問い合わせください。

03-5244-5270
e-mail info@dokusyo.or.jp

『若い人に贈る読書のすすめ』リーフレット掲載書名一覧

著者名	書名	定価	出版社
青山美智子	お探し物は図書室まで	一七六〇	ポプラ社
久山葉子(訳)	スマホ脳	一〇七八	新潮社
三浦しをん	エレジーは流れない	一六五〇	双葉社
オードリー・タン(著) 自由への手紙	オードリー・タン 自由への手紙	一五四〇	講談社
和田 秀樹	みんなに好かれなくていい	九六八	小学館
山崎聡一郎	10代の君に伝えたい 学校で悩む君が未来を切りひらく思考	一三二〇	朝日新聞出版
佐原ひかり	ブラザーズ・ブラジャー	一六七二	河出書房新社
齋藤 孝	本当の「心の強さ」ってなんだろう?	一四三〇	誠文堂新光社
中村 哲	希望の一滴	一六五〇	西日本新聞社
ブレイディみかこ	他者の靴を履く	一五九五	文藝春秋
宮田 律	武器ではなく命の水をおくりたい 中村哲医師の生き方	一五四〇	平凡社
服部みれい	自分をたいせつにする本	一〇一二	筑摩書房
榊 太一	なぜ私たちは理系を選んだのか	一五九五	岩波書店
井上 祐紀	学校では教えてくれない自分を休ませる方法	一四三〇	KADOKAWA
相沢 沙呼	教室に並んだ背表紙	一五四〇	集英社
クリス・ウィック 杉田七重(訳)	少女と少年と海の物語	三三〇〇	東京創元社
岡嶋 裕史	思考からの逃走	一七六〇	日経BP
井手 留美	捨てないパン屋の挑戦 しあわせのレシピ	一四三〇	あかね書房
井上マサキ	ホオナニ、フラおどります	一六五〇	さ・えら書房
眞邊 明人	もしも徳川家康が総理大臣になったら	一六五〇	サンマーク出版
増田 史	桃太郎のきびだんごは経費で落ちるのか? 10代から知っておきたいメンタルケア	一五四〇	ダイヤモンド社
石井 光太	格差と分断の社会地図	一四三〇	ナツメ社
エヴァ・イランド いとうみ(訳)	しあわせをさがしている きみに	一八七〇	日本実業出版社
		一六五〇	ほるぷ出版





2021年度・第54回 全国優良読書グループ表彰 ——道府県読進協推薦——

ています。

全国的読書グループに敬意を表し、数ある読書グループを対象にご推薦の労をとられた、各道府県

読書推進運動協議会のみなさまに、深く感謝いたします。

推薦された優良読書グループには、その業績を讃え、公益社団

優良読書グループ名

所在地

代表者(世話人)名

おはなし会「わらべ」

読み聞かせボランティア「こころ」

七ヶ浜町おはなしボランティア「あゆみの会」

おはなしポケット

相馬おはなしの部屋

ネットワークメルヘン

那珂川町図書館おはなしボランティアグループ「たまご」

古岡町図書館 ボランティア「わらべの会」

川本もくせい読書会

浦安市図書館友の会

おはなしマドレーヌ

みちくさ

石川読書グループ研究会

アポロ読書会

双葉図書館朗読ボランティア

みどりの風

人形劇サークル「明夢」

優良読書グループ名

所在地

代表者(世話人)名

安八町読書サークル協議会

三島市立図書館

音訳ボランティアグループ

図書館友の会 けやき

読み聞かせ「ほたる」

出雲市立大社図書館読書会

あいあいスマイル

(選考中)

読み聞かせボランティアグループ「よみつこ★かきも」

朗読ボランティアかがわ

おはなしばんび

延永小学校図書ボランティア「としよママ」

ムーンプック(三日小学校校友会)

人形劇 なづみ座

特定非営利活動法人 つわの花

岡本ふれあい図書館

フルーツバスケット

串木野小学校読み聞かせグループ「花さき山」

久米島町手話サークル「くめしゅわ」

岐阜県安八郡安八町

静岡県三島市

京都府京都市

和歌山県海城郡美野町

島根県出雲市

岡山県津山市

広島県

徳島県吉野川市

香川県高松市

福岡県行橋市

佐賀県小城市

長崎県西彼杵郡時津町

熊本県天草市

大分県竹田市

宮崎県西諸郡高平原町

鹿児島県

鹿兒島県

いちき串木野市

沖縄県島尻郡久米島町

東 多賀美

佐藤由紀子

永井 麻里

和田喜代美

名村 三枝

西村 照子

森住 啓子

黒川 あゆみ

吉田 純子

香月 靖子

大塚 久子

宮崎 正子

後藤 篤

瀬戸口美智子

尾場瀬ちなみ

安里 友希

(以上35グループ)



グループとなります。

なお、副賞の図書カード2万円分のうち1万円分は、例年同様、日本図書普及株式会社の協賛により寄贈されたものです。同社の協力に厚くお礼申しあげます。

公益社団法人 読書推進運動協議会では、第75回「読書週間」事業として、11月3日(祝)を中心に、各道府県の読書推進運動協議会を通じて、「第54回 全国優良読書グループ(下表)」の表彰を行いました(一部選考中)。

読書グループの結成促進と育成強化は、読書推進運動の根幹をなすものとして、公益社団法人 読書推進運動協議会は結成以来、活動の第一目標とし、道府県各読書推進運動協議会と連携して、その育成・発展に努力を重ねています。

この事業は、各道府県読書推進運動協議会の推薦により、一地域一グループを表彰するもので、原則として5年以上の活動が続いているグループを推薦・表彰の対象としています。

現在、読書グループの活動は、読書会、実演活動、家庭・地域文庫、障がいを持つ方への読書支援、図書館サポートなど、多岐にわたつ

■ JBBY ブックカタログ

世界各国・地域の「自慢の一冊」で
子どもの本の現在を知る

一般社団法人 日本国際児童図書評議会(JBBY)は、ブックカタログ『JBBYがすすめる世界の児童書』を、世界の児童書 国際アンデルセン賞とJBBYオナーリスト2020』を発行した。

このカタログは国際児童図書評議会(JBBY)に参加する世界60の国・地域が、自国・地域を代表する図書として推薦した48言語、179作品を紹介する「JBBYオナーリスト」の2020年版を翻訳・要約したもの。文学作品、イラストレーション作品、翻訳作



【左】『JBBYがすすめる世界の児童書』表紙
【右】山梨県小淵沢での「世界の子どもの本展」

品の3部門に分け、1冊ずつ書誌情報、簡単な内容紹介、対象年齢作品のキーワードを紹介している。巻末のキーワード索引は、ブックトークの組み立てにも有効。また、2020年の国際アンデルセン賞受賞者のジャクリン・ウッドソン(作家賞、アメリカ)、アルベルティナ(画家賞、スイス)の業績、作品も紹介している。

JBBYでは、カタログに掲載されている図書を展示する「世界の子どもの本展」の開催者を募集している。これは、図書館・学校ほか、展示会場が用意可能な有志の個人・団体へ、図書と作品とこの日本語解説パネルなどをセットで貸し出すもの。2023年3月までの期間、一会場につき2週間以内の貸出となる。費用など含む、カタログの入手方法、展示会開催の詳細については、JBBYまで。

● JBBY
ホームページ

https://jbbv.org/
e-mail info@jbbv.org

■ 11月1日「本の日」

華やかなブックカバー、
トークイベントで「本の日」をPR

「本の日」実行委員会(事務局：日本書店商業組合連合会、代表：矢幡秀治)は読書週間のスタートにあわせて10月27日(水)に、「本の日」ブックカバー大賞」の受賞作を発表した。

2年ぶりの実施となった今回は、「読書が楽しくなるブックカバー」をテーマに、文庫用ブックカバーのデザインを募集。応募516作品より、大賞に選ばれたのは、セキサトコさん(山口県、イラストレーター)の「本のまち」。本を「まち」に見立てたイラストで、審査委員長の矢幡秀治さんは、「ひ



落ち着いた色あいながらも、華やかなブックカバー大賞作品「本のまち」。入手したら、ぜひ、細部まで楽しんでください！

ろげて全体を見ると『本の日』という文字が道路として描かれており、本の背にはさりげなく『11月1日』と書かれている。本に巻くとその華やかさが際立ち、魅力的なブックカバー」と選考理由を述べている。このブックカバーは11月1日より、全国17の参加書店で文庫本購入時にサービスされている。参加書店の一覧は、「本の日」公式サイトから確認できる。

また、実行委員会は11月1日(月)に、トークイベント「ひろゆきと話をそう。本のこと、自分のこと、未来のこと。」をオンラインで開催。実業家で『1%の努力』(ダイヤモンド社)などの著者・西村博之(ひろゆき)さんが、事前に限定60名で募集した中学生・大学生からの質問にZoomで答える様子をYouTubeでライブ配信した。

イベント前半は、対談形式でひろゆきさんの読書体験をインタビュー。「図書館へ週2回行くのが、小学生のときの習慣だった」などのエピソードが披露された。



書店などに掲出されたトークイベント告知ポスター

後半は、司会者に指名された学生がひろゆきさんに質問。「読みたい本が見つからなくて困っている」「高校生で読んでおくべき本はありますか?」「中学校内でマンガを読んではいけない理由はないことを論破してほしい」などの、さまざまな質問に答えた。

最後に、「ネット上の知識だけを拾うのでは、絶対AIに勝てない。検索エンジンに頼らない、体系的な検索をできる力をつけること。ちゃんとした本を読んでほしい」と学生たちへ語った。

ブックカバー大賞の表彰式、トークイベントの見逃し配信は、「本の日」公式サイト(下記QRコード)より視聴可能。



■親地連 全国交流集会

はじめてのオンライン開催で
全国の仲間と交流

親子読書地域文庫全国連絡会（親地連）の第23回全国交流集会が、10月3日(日)13時から行われた。今回は新型コロナウイルス感染症対応のため、はじめてのオンライン形式（Zoom使用）での開催となり、182名が参加した。

当日のプログラムは、開会の挨拶、各地からの報告に引き続き、京都大学前総長の山極壽一さん（総合地球環境学研究所所長）の記念講演という構成。

冒頭の挨拶では、実行委員長の栗山由香さんの開会の辞に続いて、前代表の広瀬恒子さんのビデオ



【左上】各地からの報告 【右上】広瀬恒子さんのメッセージ 【下】活動概況

オメッセージが公開された。

その中で広瀬さんは、51年間の活動を振り返り、「なぜ子どもにとって本が大事なのか」について、子どもが成長上の課題に直面したときに力を与えてくれるものであり、本にふれあえる環境を作るのは大人の役割であることを強調した。

つぎに現代表の原良子さんから最近の活動概況と今年の6～7月に実施したアンケート結果についての報告があった。新型コロナウイルスの流行を受けて活動を中止・縮小せざるをえない文庫が多かったものの、さまざまな工夫をこらして活動を再開したことが説明された。

各地からの報告では3団体からの報告があった。「うすゆきそう文庫」（岩手県盛岡市）は代表の澤口杜志さんが、中屋敷町公民館を拠点とした活動を紹介し、「子どもたちのことを第一に考える」をモットーに、「子どもの話を聞く」ことを心掛けていることを語られた。

「ともだち文庫」（埼玉県北本市）は代表の藤本富美子さんが、市に学校図書館の充実を訴えて成果があったことや、記念文集を作成したときに、文庫の卒業生から「本を読んだことがいまの自分を作っている」と活動への励ましを受けたことなどを報告した。

「香川県子ども文庫連絡会」は藤井則子さんが、2021年度いっぱいでの活動終了を報告した。1982年の発足以来40年近くが経過し、メンバーの高齢化や子どもの減少などを受けて決断したこと。

続く記念講演「ゴリラから学んだことーコロナ後の世界をどう生きるか」では、講師の山極壽一さんが「自身の専門分野であるゴリラの生態との比較を通して、人間のユニークな特徴を紹介。なかでも特徴的な社会のつながりがコロナ禍によって損なわれてしまったので、コロナ後はあらためて共感、共有の考え方が必要になってくると示唆した。

記念講演終了後は、出席者全員がビデオオンにした状態で、山極さんをかこんだ画面をスクリーンショットした「記念撮影」も行われた。

■国際子ども図書館 児童文学連続講座

多彩なヤングアダルト文学を
見渡す講座の記録集

国立国会図書館 国際子ども図書館は、「令和2年度 児童文学連続講座講義録『10代に手渡す物語ーヤングアダルト文学総論』」を発行した。

同館では2004年度よりほぼ毎年、「児童文学連続講座」を開催しており、昨年度の講座『10代に手渡す物語』は白井澄子さん（百合女子大学教授）の監修で、昨年11月9日・10日にオンラインでのライブ配信形式で開かれた。各講座のテーマと講師は、「21世紀の英米ヤングアダルト文学」水間千恵さん（川口短期大学教授）、「ヤングアダルト書籍としてのライトノベル」大橋崇行さん（東海学園大学准教授）、「現代日本児童文学と『ヤングアダルト文学』」奥山恵さん（児童書専門店経営）、「英語圏のヤングアダルト文学と図書館活動」白井澄子さん、「国際子ども図書館の中高校生向けサービス」榎木恵美子さん（国際子ども図書館職員）（各講師の肩書きは開催当時のもの）。

講義録には講座のレジュメと紹介された資料リストも収録されている。PDFは国際子ども図書館ホームページで閲覧可能。冊子は公益社団法人 日本図書館協会電話03-3523-0812より購入できる。

また、本年度の児童文学連続講座は、「今を生きるヤングアダルトへ」をテーマに現在オンラインで開催中。申し込むことで11月1日から来月11月11日までの配信期間中、講座を視聴できる。講師は、苦野一徳さん（熊本大学准教授）、白井澄子さん、ひこ・田中さん（作家、三辺律子さん（翻訳家）、国立国会図書館国際子ども図書館職員。今年度講座の詳細 視聴方法、視聴申込（無料）は、国際子ども図書館まで。



令和2年度講義録表紙

●国立国会図書館国際子ども図書館
<https://www.kodomo.go.jp/>

■国立国会図書館 国際子ども図書館 中高生向けサービス

「調べる体験」で本の世界、知の世界の奥深さを 中学生・高校生に感じてほしい！

本紙5ページで紹介した、国立国会図書館 国際子ども図書館の『連続児童文学講座講義録』の一項に「国際子ども図書館の中高生向けサービス」とあります。どんなサービスが提供されているのでしょうか？

「調べものの部屋」

国際子ども図書館の中高生向けサービスの中心となるのは、2016年2月に設置された資料室「調べものの部屋」です。



西洋の物語に出てくる図書館のような
「調べものの部屋」

この資料室にはその名のとおり、中高生の調べものに役立つ図書資料約1万冊が並んでいます。コンセプトは、「中高生に、本の世界への入り口として知の世界の奥深さを感じてもらおう」こと。辞典類や専門書など「いかにも調べものの！」という資料だけではなく、図版が豊富でめくるだけで楽しくなる資料や、ライトノベルの書き方など、「こんなことも調べられるの?」という資料もあります。

明確なテーマがない利用者でも、書架を眺めていると調べたい気持ちが出てくるようです。

資料室入口にあるのは、2か月ごとにテーマが変わる「ウェルカム展示」の棚です。この11月・12月のテーマは「遊び」です。そのほか、SDGsをテーマにした展示コーナーや教科書掲載作品、同館がある東京・上野地区に関連するコーナーも用意されています。

資料は、図書館で一般的な日本十進分類法に従って配置され、十進分類法について、詳しい説明が展示されています。それでも調べ

方がわからない場合は、資料室内のOPACを利用したり、カウンターのスタッフに相談できますので、初心者も安心して利用できます。

「調べものの体験プログラム」

2016年4月からはじまった「調べものの体験プログラム」は、「調べものの部屋」の資料などを

使い、図書館での調べものを体験できるプログラムです。学校からの事前申込制で、2019年度までに100回実施され、参加人数は約1600人を数えています。プログラムは1〜2時間の短時間で、図書館や本での調べものをおもしろいと思ってもらえるような内容となっています。

プログラムは、調べものの要素が強く、本を使ってクイズを解く作業を必要とする4つのコース（調べものの対戦・調べもののクイズ・館内探索スタンプラリー・クイズ出題対決）と、本から情報を読み取ってこばで表現する2つのコース（ストーリー創作・PO

P広告作成）が用意されています。これまで申し込みが最も多かったのは、「調べもののクイズ」コース、次いで「館内探索スタンプラリー」コース、「調べものの対戦」コースとなっています。調べもののコースの人気の高いようです。

出題されるクイズは、インターネットでの検索だけでは簡単に答えが出せず、本による下調べが必要となるもの、検索キーワードの言い換えが必要とされるものなど、OPAC検索、資料の目次・索引を使った検索へと参加者を導くように工夫がされています。

参加校は、国際子ども図書館に近い東京都内および関東圏の学校が大部分を占めていますが、遠隔地の学校が修学旅行コースのひとつとして利用するケースもあるそうです。プログラム詳細や参加申込方法は国際子ども図書館ホームページ (<https://www.kodomo.go.jp/>) をご覧ください。

今後に向けて

本で調べる楽しさを中高生に知ってもらおうという国際子ども図書館のサービスについて、紹介しました。

「調べものの部屋」の規模では、



17の目標と関連図書が一目でわかる
SDGs 展示コーナー

中高生の本格的な調べものに対応するのは難しいかもしれませんが、調べものの体験プログラムで、本を活用することの奥深さを体験することにより、図書館や本に親しんでもらい、中高生の自発的な利用が少なくないと思われている多くの図書館の利用促進につなげていけたらと、国際子ども図書館では考えているそうです。そのため、中高生にとって魅力ある書架づくりを目指し、スタッフは日々意見を交わしながら、並べる本を選んでいきます。

国際子ども図書館では、今後は、グループに限らずひとりでも調べものの体験プログラムに参加できるようにプログラムの作成も計画しています。今後の中高生向けサービスの進化に、注目です。（編集部）



【左】ポスターの隣は、先生たちの推薦図書！

【右】図書室前の掲示板に生徒たちの地元紙投稿記事と(小矢部市立大谷中学校)

学校に読書の風が吹く！

～読書週間ポスター展示 in 学校図書館～

今年の「読書週間」ポスターは、さわやかなイラストが「学校にあう！」「図書室が明るくなった」と、中学校・高校に大好評！

編集部に届いたステキな写真の一部をご紹介します。



書架の間の展示スペースで、ハロウィン特集と一緒に(中学校図書室)



みなさん、「ポスター貼っただけですよ」なんておっしゃっていましたが、どうしてどうして、提示場所や特集にひと工夫、ふた工夫も……。ポスターを作る側として、ただただ感謝です！

【右】図書室の外廊下黒板で手づくりの落ち葉をそえて

【左】閲覧室で「違う私」に出会う(東京都立調布北高等学校)



【左】「若い人に贈る読書のすすめ」と「読書週間」の合わせ技一本！

【右】過去の「若い人」リーフレット掲載図書も特集されています(東京大学教育学部附属中等教育学校)



■高橋松之助記念財団 各賞発表

「朝の読書」と多彩な実践を
継続してきた学校が受賞

公益財団法人 高橋松之助記念財団は、9月29日(水)、「第14回 高橋松之助記念『朝の読書大賞』『文字・活字文化推進大賞』」の受賞者を発表した。

●第14回 高橋松之助記念「朝の読書大賞」

中津市立下郷小学校(大分県中津市) 2005年より毎日「朝の読書」を実施。本が大好きな「下郷子」

がさらに増えていくことを目指し、学校・地域・家庭が連携してさまざまな読書活動を行っている。学校法人創価学園 関西創価中学校(大阪府交野市) 生徒一人ひとりが読書の喜びを知り、読書習慣が身に付くよう、朝の読書、ビブリオバトル、授業との連携など多彩な読書推進活動を実施している。愛知県立豊田高等学校(愛知県豊田市) 学校の指導重点項目のひとつ

■絵本図書館ネットワーク

地域をつなげる絵本の力を
シンポジウムで確かめよう

絵本を通して人の関わりを広げ、人づくり町づくりに寄与することを目的とする図書館関係者・ボランティアのネットワーク「絵本図書館ネットワーク」は、「第3回 子ども読書活動推進に関する代表者シンポジウム」を12月19日(日)に東京国際フォーラム会議室(東京都千代田区)で開催する。シンポジウムでは、コロナ禍における活動状況や今後の展望、団

体同士の横の連携などについて討議される。コーディネーターは野口武悟さん(専修大学教授。設楽敬一さん(全国学校図書館協議会理事長)、白井哲さん(NPOブックスタート代表)、洞本昌哉さん(ふたば書房代表取締役)、竹内美紀さん(東洋大学准教授、園田久美子さん(三郷市教育委員会)がシンポジストを、森西さん(日本図書館協会顧問)とアンド

とともに「読書タイムを起点とした言語活動の推進」を掲げて、教職員と生徒が一丸となり、読書推進活動を展開している。

●第14回 高橋松之助記念「文字・活字文化推進大賞」

岡山放送株式会社 アナウンサー(岡山県岡山市) 局アナウンサーが2001年に始めた出張朗読会。10年間の継続で岡山県・香川県の全市町村への訪問を達成した。

贈呈式は、10月25日(月)に受賞者と財団関係者のみでオンライン形式で実施された。

リユー・デュアーさん(子ども読書推進プロジェクト代表)がオブザーバーを務める。

記念講演は柳田邦男さん(ノンフィクション作家)の「地域に根を下ろす絵本活動」最近の事例とこれから」。

参加費は無料だが、事前の申し込みが必要。会場またはオンラインでの参加(先着順)が選べる。シンポジウム詳細、申し込みは絵本図書館ネットワークまで。

●絵本図書館ネットワーク

https://ehon-lib.net



事務局報告(10月)

- ☆1日「野間読書推進賞贈呈式」について文部科学省総合教育政策局に祝辞依頼
- ・3日「親地連全国交流集会(オンライン)」に参加
- ☆4日「野間読書推進賞贈呈式」案内を発送
- ☆5日「野間読書推進賞贈呈式」について出版クラブと打ちあわせ
- ☆5日「学校図書館図書等の整備・拡充を求める各界連絡会」に出席
- ☆6日「機関紙『読書推進運動』第64号別冊」こともの読書週間行事報告一覧」入稿
- ☆6日「第75回読書週間」事業について日本図書及株式会社と打ちあわせ
- ・6日「伊藤忠記念財団「子ども文庫助成事業」本年度の委託業務を完了
- ☆7日「機関紙『読書推進運動』第64号本紙」入稿、別冊「責」
- ☆7日「若い人に贈る読書のすすめ」書目メール投票用リストを各事業員に配信
- ☆8日「機関紙『読書推進運動』第64号本紙」責
- ☆13日「野間読書推進賞贈呈式」撮影につきカメラマンと打ちあわせ
- ・13日「よたかひろこさんより「子ども読書の日」ポスターラフ受け取り
- ☆15日「機関紙『読書推進運動』第64号本紙・別冊 出来
- ☆19日「2021年度第3回常務理事会」開催
- ☆20日「2021年第63回こともの読書週間行事報告を各後援団体に送付
- ☆22日「野間読書推進賞要項」贈呈式次第入稿
- ☆26日「野間読書推進賞要項」贈呈式次第責
- ☆27日(11月9日)「2021年第75回読書週間」
- ☆28日「野間読書推進賞メッセージ集」入稿
- ☆28日「野間読書推進賞メッセージ集」責

●編集部・事務局の
ひとこと

●11月6・7日開催の日本子ども読書研究会全国大会の資料が、事前に届きました。資料のひとつ、過去の大会テーマと記念講演の一覧に大学の恩師ふたりの名前があり、うれしく懐かしい思いになりました。

●おひとは「感情の教育」がテーマの坂元忠芳先生。1年目のゼミでは貧困や教育格差のルポルタージュ、2年目はジェンダーや引きこもりについての「コミュニケーション不全症候群」(中島梓)がテキストでした。ゼミ生たちは小さなグループを作り、「ハマータウンの野郎ども」(ウィリス)、「再生産」(ブルデュ)などに挑戦し、その成果をゼミで発表。30年ほど前の話ですが、現在の社会にとって大きく、切実なテーマばかりなのに驚きます。

●もうおひとは、山住正己先生。当時、学部長や大学総長の仕事で忙しかつ、ゼミはほぼ学生の自主運営でしたが、可能な限りゼミとの飲み会に顔を出され、学生たちとの対話を重ねられました。ゼミで司会を務めるとその回のまとめを「通信」にしなければならぬのですが、山住ゼミはまとめに加えて「なんでもいから書評を書く」が条件。まともいものこちらの方に苦勞しました。

●おふたりとも、年度末には自主研究レポートの提出を課題とされました。文献を読む、それらをまとめて文章とする。本紙の作業を進めながら、「私の基礎を作ったのは、おふたりのゼミだったな」と、学生時代の出会いに感謝しています。(伸)